

楽曲《ボレロ》がよく知られているフランスの作曲家ラヴェル。
音楽資料室ではラヴェルの楽曲の音源を多数所蔵しており、の中には
彼自身が演奏した自作自演音源もあります。
そのほか人物や作品について書かれた図書も所蔵しています。



ラヴェルと自作自演録音

モーリス・ラヴェル（1875-1937）は、7歳でピアノを、12歳からは作曲の初歩を習い始め、14歳のときパリ音楽院にピアノ予科生として入学しました。パリ音楽院では成績が振るわず一度除籍処分を受けるものの、のちに作曲科へ再入学をしています。

当時の西洋音楽家に大きな影響を与えたといわれる、“ガムラン音楽”が披露された「第4回パリ万博」が開催されたのは1889年のこと。パリ音楽院に入学したばかりのラヴェルも足を運んでいたようです。

また、ガムラン音楽だけではなく、1920年頃以降にはアメリカの“ジャズ”にも非常に関心を持ち、《ヴァイオリン・ソナタ》第2楽章に〈ブルース〉と題するほどでした。ラヴェルの作品にはこうした異国への関心が大きく反映されています。

ラヴェルの人物像を知りたい方はこちら

- 『ラヴェル：作曲家・人と作品シリーズ』
井上さつき著 ★請求記号：6.9-R196I-19
ラヴェルの生涯、作曲の背景や初演時の様子、作品概要などわかりやすくまとめられています。
- 『ラヴェル：生涯と作品』
アービー・オレンシュタイン著
井上さつき訳 ★請求記号：6.9-R196O-06
写真や自筆譜など多数収載されており、巻末には作品目録も掲載されています。

パリ万博について気になった方はこちら

- 『パリ万博音楽案内』
井上さつき著 ★請求記号：6.6-In7-98
- 『音楽を展示する：パリ万博1855-1900』
井上さつき著 ★請求記号：6.6-In7-09
- 『ラヴェル』
ジャン・エシュノーズ著
関口涼子訳 ★請求記号：8.7-Ec43-07
ラヴェルの晩年の10年間で描かれた伝記風の小説です。

ラヴェルの自作自演音源はこちら

- 〈LP〉 『Maurice Ravel plays Ravel』
★請求記号：R45.5
《亡き王女のためのパヴァーヌ》など、ラヴェルの演奏によるピアノ曲を5曲収録。
- 〈LP〉 『Ravel conducts The Lamoureux Orchestra』
★請求記号：P91.9
ラヴェルの指揮による《ボレロ》を収録。
- 〈CD〉 『世紀の大作曲家自作自演集』
★請求記号：1J3.38
《ソナチネ》より第2楽章を収録。
(*)ヴェルテ=ミニオンによる自作自演。

“自作自演”とは

音楽でいわれる自作自演とは、自分が作った楽曲などの作品を自分で演奏することを意味します。

(*)ヴェルテ=ミニオンとは

ドイツのヴェルテ社が1904年に開発した自動再演ピアノのことで、ピアニストが弾いたものを記録できる装置です。演奏はペーパーロールに記録されており、自動演奏機能付きピアノにペーパーロールをかけて再生演奏する、というものでした。このCDは、ヴェルテ=ミニオンを使って再生演奏した自作自演音源を収録しています。

■ 音楽資料室で利用できる オンライン音源配信サービスのご案内 ■

音楽資料室内の専用端末(PC)で音楽を聴くことができるサービスです。

利用したい方はカウンターにお申し出ください。

※1回1時間程度でお願いいたします。

お待ちの方がいない場合は1時間単位で延長できます。

★ナクソス・ミュージック・ライブラリー

クラシックを中心に、200万曲以上を再生できる音楽データベースです。

クラシック音楽のほか現代音楽、ジャズ、民族音楽など世界各国の音楽レーベルを幅広く収録しています。

「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」最新データ (2024年3月26日時点)

・配信アルバム数: 167,178

・配信曲数: 2,583,023

・参加レーベル数: 1,050

・収録作曲家数: 49,801人

--「月刊クラシック通信」第58号 掲載情報より--

★国立国会図書館歴史的音源(れきおん)

1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等、約5万点のデジタル化された音源を聴くことができます。

